

日本語・中国語における挨拶語の比較研究

—中国における日本語教育の視点から—

皇 麗 梅*・川 本 信 幹**

(平成 8 年 10 月 17 日受付, 平成 8 年 12 月 3 日受理)

Comparative Study on the Difference between Chinese and Japanese Greetings

—In View of the Education of Japanese Language in the People's Republic of China—

Huang LIMEI and Nobuyoshi KAWAMOTO

Greetings are very important for people in any country to keep good social relations. The Japanese can properly and easily speak various greetings more complicated than those of foreigners in different social situations and diverse human relationship. This is because they are trained to select any greeting phrases that are suitable for the particular situations from their childhood.

On the contrary, such Japanese greetings are very difficult for foreigners to learn. Polite expressions in Japanese are also not easy for foreigners to speak, but these are systematized. The selection of the suitable greeting phrases depends on the speaker's consciousness to the hearer and the situation and so on. Therefore, it is very difficult for a non-native teacher to teach how to speak and select the proper greeting phrases.

The object of this paper is to clarify and grasp the diversity of the Japanese greetings and the characteristic features by comparison with the corresponding Chinese greetings. The further object of the paper is to give the particularly important points for teaching the Japanese greetings to the students of the People's Republic of China.

はじめに

いずれの国においても、日常の挨拶語は、人間が社会的な関係を維持するために極めて重要なものである。日本人は、様々な社会的な場面、様々な人間関係の中で、外国人に比べてはるかに複雑で多様な挨拶語を自在に駆使することができる。日本人は、幼時から、親子・学校・地域社会・職場などの人間関係の中で、場に応じた、相手に応じた挨拶語を習得しているから、挨拶語の使い分けが可能なのである。

ところが、外国人が日本語を習得するに当たって、この挨拶語ほど厄介なものはない。日本語の敬語も、外国人にとってははなはだ難物であるが、こちらはまだある程度の体系化・組織化がなされている。しかし、挨拶語は、使用する場面・使用する相手に対する当事者の意識がからんでいるので、第三者にはいささか理解しがたいところがある。外国人に対する日本語教育の中で、特に

日本語を母語としない指導者が指導を担当する場合、挨拶語の指導は困難を極める。

例えば、客にお茶を勧める場合、日本語の挨拶では、「粗茶でございます」と言う。「粗茶」とは「粗末なお茶」という意味である。ところが、実際に出されているお茶は、100gで3,000円もするようすばらしく高価な緑茶である。したがって、一口飲み終わると、「結構なお茶でございます」などと感想を述べなければならない。

中国人にとって、もう1つ理解できないのは、高価でおいしいはずのお茶を、なぜ「粗茶」と表現するのかという点である。日本人に言わせると、これは日本の身分制度によって形成された文化から来るものらしい。封建的な身分制度は一応解消したはずの日本社会に、封建社会の遺産である、敬語や挨拶語が根強く使われ続けていることになる。外国人にとって理解しにくいはずで

* 北京体育大学, ** 人文科学研究室

ある。

本論文のねらいは、日本語の挨拶語の多様性とそれぞれの語の特質を把握し、それぞれの語に対応する中国語の挨拶語との相違点を探り、中国の学生に日本語の挨拶語を指導するための留意点を具体的に明確にするところにある。

なお、本論文においては、日本語の日常的に用いられる挨拶語を便宜的に次のように分類して、それぞれに考察を加えることとした。

1. 時間の挨拶語
2. 出会い・別れの挨拶語
3. 感謝・詫言の挨拶語
4. 物品授受の挨拶語
5. 家の出入りの挨拶語
6. 依頼の挨拶語

1. 時間の挨拶語

- ① 朝 おはよう・おはようございます
- ② 昼 今日は
- ③ 晩 今晩は
- ④ 夜 おやすみ・おやすみなさい・おやすみなさいませ

(1) 中国語の挨拶語の考察

時間の挨拶語は、外国人が日本語を習得するときに、最初に学習する挨拶語である。中日両国の時間の挨拶語はどのように異なっているか。まず、中国語の挨拶表現から考察する。

① 你好・您好

中国語を少し学習した日本人は、皆「你好（あなたは、ご機嫌いかがですか）」という挨拶ができる。中国人の生活習慣では、朝・昼・晩、人と会ったときには「你好」或いは「您好」という挨拶ですませることができる。「您好」は、主として目上の人に、「你好」は誰に対しても用いる。「你」と「您」はともに2人称を表す代名詞である。「你」は一般的な呼称で、「您」は尊敬語というよりは丁寧語という感じである。

② 你起得真早・噢！起得这么早

しかし、早朝、人と会うと、「你好」「您好」という挨拶語の他に「你起得真早（あなたは、こんなに早く起きたの）」「噢！起得这么早（あら、早く起きたね）」と言う人もいるが、これは早朝5時ころから6時ころまでに用いる。

③ 早上好

中国南部の人（年配者）は、朝、人と会うと「早上好」と言って挨拶する。「早上好」には2つの意味がある。1つは「这么早就起来干活，真勤快（朝早くから働きます、働き者ですね）」という意味、もう1つは、普通の安否を問う意味である。

北部の人は、もっぱら「你好」を用いる。

④ 老师您早・老师您好

中国の大・中（高）・小学校は8時から始まるが、小学生は、朝、先生に会うと、お辞儀をしながら、「老师您早（先生、お早ようございます）」、或いは「老师您好（先生、ご機嫌いかがですか）」と言って挨拶する。しかし、大・中学生は「老师您早」と言わず、「老师您好」或いは「老师早」を用いる。

さらに昼間先生に会うと「老师好」と挨拶する。

⑤ 中午好

「中午好（今日は）」は、挨拶語としては存在するが、中国ではほとんど使用しない。

⑥ 晚上好

「晚上好（今晩は）」もあまり使用しないが、夜、会議や何かのパーティーがあったときに、司会者が「大家晚上好……（皆さん、今晩は）」と挨拶する。一般の人は「晚上好」と言わないで、「你吃饭了吗？（あなた、お食事はすみましたか）」と言うが、これは相手が食事をしたかどうかを心配するわけではなく、ほとんど儀礼的な挨拶である。

⑦ 晚安・再会・再见

テレビ番組が終わるときに、画面に「晚安、或いは「再会」「再见」という言葉が出る。「晚安」は「おやすみなさい」という意味で、「再会」「再见」は、「明日また会いましょう」という意味である。しかし、日常の会話では、「晚安」「再会」という言葉はあまり使わないで、「明天見（あしたまた会いましょう）」を用いることが多い。

(2) 日本語の時間の挨拶語の考察

時間にかかわる挨拶については、日本人は、朝・昼・晩、別々な挨拶語を用いる。

① おはよう、おはようございます

朝、起きてから人と会うときに「おはよう」「おはようございます」と挨拶する。日本は身分制のはっきりしている国で、それが挨拶語にも表れている。同格或いは目下の人に対しては「おはよう」を、目上の人に対しては「おはようございます」を用いる。

この語は、午前中用いていいのであるが、「今日は」を用いる時間帯との区分が不明確である。例えば、午前11時ころには、「おはよう」と言えばよいのか「今日は」と言えばよいのか、外国人としてははなはだ当惑するところである。

いずれにしても、12時を過ぎると、「おはよう」は使用しない。

ところが、奇妙なことに、テレビ局や劇場で仕事を

する人たちは、夜であっても、その日初めて会う人には「おはようございます」と挨拶する。徹夜で仕事をして、朝になったら、「おやすみなさい」と挨拶して引き揚げるのであろうか。

② 今日は

昼間人に会うと、「今日は」と言うのが普通である。「おはよう」との区分が曖昧であるばかりでなく、「今晩は」との時間的な区分が曖昧である。日が完全に暮れてしまえば、間違いなく「今晩は」であろうが、薄暮の時間では、どちらを使うか迷うところである。

外国人が当惑するのは、「おはよう」に対して「おはようございます」があるのに、「今日は」には丁寧語の形がないことである。無理に丁寧にしようとして「お」を付けて「お今日は」「お今晩は」とやってはならない。

「今日は」の「は」は、主格または取り立てを表す助詞だから、このままの形で使うのはおかしいという疑問が学生からしばしば提示される。「今日は、結構な日和ですね」といった挨拶の省略形であるから「は」を使うのであると説明するが、今日では「今日は」だけで独立して使われるのであるから、「こんにちわ」の形に表記を改めるべきではないか。

③ 今晩は

日が暮れたら、人に会ったとき、「今晩は」を用いる。前述のように、「今日は」との時間的な区分が不明確である。これもまた、丁寧語の形がない。

「今晩は」の「は」についても、前述のようなことが考えられる。

④ おやすみ、おやすみなさい

夜、眠ろうとするとき、或いは、夜、人と別れるときに用いる。「おやすみ」は、同格または目下の人、「おやすみなさい」は、原則として、目上の人に対して使われる。また、男性はほとんど用いないが、女性は、目上の人に対して、「おやすみなさいませ」という一段と丁寧な表現を用いることがある。

〈日本・中国時間挨拶語の対照〉

	日 本	中 国
① 朝	おはよう おはようございます	早上好 你 好 您 好
② 昼	今日は	
③ 晩	今晩は	晚上好
④ 夜	おやすみ おやすみなさい おやすみなさいませ	晚 安

(3) 中国人に対する日本語教育の留意点

以上に考察を加えたように、中国語と日本語の時間にかかわる挨拶語には、かなりの相違がある。主たる挨拶語を対照表にすると上記のとおりである。指導に当たっては、これを念頭に置き、さらに次の点を注意しなければならない。

- ① 中国語による時間にかかわる挨拶語は、ほとんど「你好」だけで間に合うとあってよい。ところが、日本語の時間の挨拶語は、朝・昼・晩・夜と時間による区分がある。
- ② 朝と昼、昼と晩との区分が必ずしも明確でない。境目においてはどちらを使ってもよい場合もある。ただし、午後になってからは「おはよう」は絶対使えない。早朝や晩には「今日は」を使うと日本人には奇異な顔をされる。
- ③ 相手によって、表現の仕方を変えなければならない場合がある。目上の人に向かっては、「おはよう」「おやすみ」は使えないが、目下の人に「おはようございます」「おやすみなさい」という丁寧語を用いるのはかまわない。
- ④ 芸能界・マスコミの世界では、午後でも・夜でも、初めて人に会うと「おはよう」と言うが、これは特別な業界用語と考えるべきで、中国人への日本語教育の中では、誤解のないよう十分注意したい。

2. 出会い・別れの挨拶語

- | | |
|-----------|-------------|
| ①お久しぶりですね | じゃあね、あとでね |
| ②どちらへ | ⑦ごきげんよう、 |
| ③元気ですか | ご無事で、お元気でね |
| ④やあ、やあやあ | ⑧失礼、失礼します |
| ⑤初めまして | ⑨お疲れさま |
| ⑥ではまた、 | ⑩さよなら、さようなら |

(1) 中国語の挨拶語の考察

〈出会いの挨拶語〉

出会いの挨拶語にはいろいろな表現がある。短い別離を挟んだ出会いと、長い別離を挟んだ出会いとは、入念さが違い、強さも違うのである。

① 你好・出門呀・喂・你去哪？

時間の挨拶語で示した「你好」は、出会いの挨拶語でもある。友達や同僚と路上ですれ違うときに、「你好」ですますことが多い。しかし、ときには「出門呀(お出かけですか)」「喂、你去哪？(おい、どこへ行くの)」などと言うことがある。聞かれた相手は「学校に行く」或いは「買物に行く」と直接に答えて立ち去る。

子供が大人に出会うと「阿姨好(おばさん、ご機嫌

いかが一日本語では、おばさん、今日は、に当たる)」
「叔叔好（おじさん、ご機嫌いかがが一日本語では、おじさん、今日は、に当たる）」などと挨拶する。子供と子供の場合は、相手の名前を呼んで、「你好」はほとんど使わない。大学生は、「你好」と挨拶することが多い。

② 呀！好久不見了，身体好吗？

長い間お互いに会わなかった友人同士が再会したとき、喜びの表情を示し、手を握り、肩を抱き合って「呀！好久不見了，你身体好吗？（やあ、随分長い間会いませんでしたね、お元気ですか）」などと挨拶する。

③ 我叫***，初次見面請多々关照

双方とも初めて会うときは、手を握りながら「你好」或いは「您好」と挨拶するのは中国の習慣だが、今日、中国人と日本人と初めて会うときに、中国人は、「我叫***，初次見面請多々关照（私は***です、初めまして、よろしく願います）」と挨拶する。これは、中国独自の挨拶ではなく、日本人の習慣を真似たものである。

〈別れの挨拶語〉

別れの挨拶語としては「再見」が一般的である。「また会いましょう」という意味で、日本語では「さようなら」に当たるが、言外に、これでお別れという意味が含まれている。ただ、この一語では意を尽くさぬ場合が多く、様々な場面で、様々な挨拶の表現がある。

① 祝你一路平安，祝你留学成功，出們儿在外多保重
外国への長期留学に旅立つ人を空港に見送った人たちが口にする別れの挨拶語は様々である。例えば、「祝你一路平安（あなたの旅の平安を祈ります）」「祝你留学成功（あなたの留学の成功を祈ります）」「出們儿在外多保重（旅先ではお体を大切にしてください）」などである。

② 我先走了，再見

職場で仕事を終えて、同僚より先に職場を出るときには「我先走了，再見（お先に失礼します、さようなら）」と挨拶する。このケースは、日本語の挨拶と同じである。

③ 妈妈，我上学去了，妈—我走啦

学校に通う子供は、毎朝家を出るときに母親に「妈妈，我上学去了（お母さん、私は学校に行きます）」「妈—我走啦（お母さん、私は行ってきます）」と挨拶する。

なお、授業が終わって下校するときには「老師再見（先生、また会いましょう、日本語の「先生さようなら」に当たる）」

④ 对不起，打搅你们啦

夜、友人の家を訪問し、遅くまでいて辞去する場合「对不起，打搅你们啦（すみません、お邪魔しました）」と挨拶する。「对不起」は、日本語では「すみません、ごめんなさい、申し訳ありません」に当たる。

(2) 日本語の挨拶語の考察

〈出会いの挨拶語〉

日本語の出会いの挨拶語は、時間の挨拶語と共通の部分がある。「おはよう・今日は・今晩は」などがそれである。しかし、時と場合に応じて、変化に富んだ挨拶語が多く用いられる。

① お久しぶりですね

長い別離のあとで再会したときに用いる挨拶語である。「お久しぶりですね」という表現は、相手への敬意が込められているが、さらに丁寧な表現には「お久しぶりでございます」がある。親しい相手には「久しぶりだね（男性語）」「お久しぶり（女性語）」などとも言う。

目上の人に「久しぶりだね」と言われたら、「ご無沙汰しております」「ご無沙汰いたしております」などと応じなければならない。

② どちらへ

家から電車の駅に向かって行く人に会ったときなど、日本人は「どちらへ」と聞く。奇妙なことに、聞かれた相手は、平然と「ちょっとそこまで」と答えて立ち去る。「どちらへ」と聞いた人も「そうですか」と言って、これも平然と立ち去る。

つまり、聞き手は、「どちらへ」という言葉を、実際に相手の行先を知ろうと思って発しているのではなく、単に出会いの挨拶語として発しているだけのことである。だから相手も「ちょっとそこまで」と答えるだけで実際の行先を言わないのである。

外国人には理解しにくい挨拶語の1つである。

③ 元気ですか

毎日、或いは、ほとんど毎日会う人には使わないが、しばらく会わなかった人に会うと、「お元気ですか」「元気か」と声を掛ける。これも心から相手の健康を心配しているわけではなく、ほとんど儀礼的な挨拶である。中国語の「你好」と全く同じである。

④ やあ、やあやあ

学生同士が、道で会って、そのまま通り過ぎるときなどに、手を挙げたりして「やあ」とか「やあやあ」などと声を掛ける。これも出会いの挨拶であるが、ほとんど意味はない。掛け声に近い挨拶語である。

⑤ 初めまして

初対面の人に会ったときには、「初めまして」とか

「初めてお目にかかります」とか挨拶する。お互いに初対面だということは分かり切っている、儀礼的にそう挨拶するのである。それに加えて「どうぞよろしくお願いします(お願いいたします)」と付け加える。

〈別れの挨拶語〉

日本語の別れの挨拶の代表的なものは「さようなら」であるが、日常生活の中で、場面に応じ、相手に応じて、多様な挨拶語が用いられている。夜人と別れる場合は、「さようなら」に代えて、時間の挨拶語である「お休みなさい」を使うこともできる。

⑥ ではまた・あとでね・じゃあね、

すぐにまた会う可能性のある場合の別れには、「ではまた」と言って席を立ったり、その場を離れたりする。親しい間柄の場合は「あとでね」とか「またね」と言う。「あとでね」は、その日のうちにまた会う可能性のあることを感じさせる。「またね」は、いつ会うかは必ずしも暗示されない。「じゃあね」は、「では、これでね」といった感じを表現する。ここで区切りを付けてお別れするといった程度のニュアンスである。

⑦ ごきげんよう・ご無事で・お元気でね

別れるときに、別れたあとの相手の健康・無事を祈る挨拶語として、「ごきげんよう」「ご無事で」「お元気でね」などがある。「ごきげんよう」は、相手がよい気分で過ごすように祈る言葉であるが、健康を祈る意味もある。庶民の間で日常的に使われるわけではない。上流階級に属する人々が使ったり、テレビやラジオの出演者が視聴者に呼び掛けたりするのに用いる。

旅に出る人や当分会えそうにない人に対しては「ご無事で・どうぞご無事で」「お元気で・どうぞお元気でね」などと言う。

⑧ 失礼・失礼します

人と一緒にいるとき、そこを自分が出ていく場合に「失礼・失礼します」と挨拶する。「お先に失礼します」などと言うのもその延長上にある言い方である。

ところが、この「失礼・失礼します」は、人のいる場所に自分が入るときにも使う。また、人を掻き分けて通る場合などにも用いる。

⑨ お疲れさま

同じ職場で働いている人が、退勤するときに互いに発する挨拶語で、相手をねぎらう意味を込めている。「ご苦労さま・ご苦労さん」という挨拶語もあるが、これは目下の者から目上の者に対しては使えない。その場合は「お疲れさまでした・お疲れさまでございました」と言う。非常に親しい間柄では「お疲れさん」と言ってもよい。

⑩ さよなら・さようなら

人と別れるとき、ほとんどどのような場合でも用いられる。「さよなら」はかなり親しい人に対して用いる。「さようなら」は、「さよなら」より少し丁寧な言い方である。もともと「さようならば、これにてごめん」とか「さようならば、これにて失礼いたす」などという文語的な表現から出てきた表現である。近年は、英語の影響を受けて、子供ばかりでなくかなりの年配者でも「バイバイ」と言うことがある。

〈日本・中国出会い・別れ挨拶語の対照〉

日 本	中 国
① お久しぶりですね	好久不見了
② どちらへ・お出かけですか	你去哪? 你出門儿呀?
③ 元気ですか	你身体好吗?
④ やあ・やあやあ	噢・喂・啊
⑤ 初めまして	初次見面
⑥ ではまた・じゃあね・あとでね	再見
⑦ ごきげんよう・ご無事で・お元気でね	一路走好 願你一路平安
⑧ 失礼・失礼します・失礼いたします	失礼了
⑨ お疲れさま	辛苦了
⑩ さよなら・さようなら	再見

(3) 中国人に対する日本語教育上の留意点

① 出会い・別れの挨拶も多種多様で、場面によってはそこでしか使えない挨拶語が少なくない。それぞれの場面にふさわしい挨拶語が使えるよう訓練する必要がある。

② 逆に限定的な挨拶語から特定の言い回しが部分的に脱落して意味が曖昧になり、そのために多面的な使い方ができるようになったものもある。実際に使う場合には、自分の気持ちや意図を表現する言い方を付け加えなければならない。

③ 「どちらへ」とか「どちらへお出かけですか」という挨拶は、個人主義の確立した国では、ほとんど禁句である。「どこへ行こうと自分の勝手に、余計なことを聞かないでくれ」と言い返されることさえある。ところが、日本では外で出会ったときの儀礼的な挨拶語であって、本当に行き先を聞きたいわけではない。したがって、日本人にそう聞かれても、真っ正面から自分の行き先を答える必要はない。

「ちょっとそこまで」と答えておけば相手はそれで納得するのである。むしろ親しい相手には、行き先を本気で聞いてもかまわないし、聞かれた場合もさしつかえなければ正直に答えてもよいのである。

この「どちらへ」は、場面によっては「どちらへお出かけですか」という意味ではなく、「どちらへお帰りですか」という意味で用いることもある。ある場所で会話が終わり、さほど親しくない人とたまたま駅まで一緒になったときなどに、こう話し掛ける。これは出会いの挨拶語ではないがついでは教えておいてよい。

- ④ 初対面の人に会ったときに使う「初めまして」は、その後、相手との関係に応じてなんらかの言葉をつなぐのがよい。例えば、「初めまして、どうぞよろしくお願いたします」とか「初めまして、このたびはお世話になります」といった具合にである。さらに念を入れるならば、「初めまして、私は〇〇と申します。どうぞよろしくお願いたします」などと言う。初対面で、その後もその人と人間関係が続く可能性のない場合は「初めまして」だけですませてかまわない。
- ⑤ 人と別れるとき、中国ではほとんど「再見」ですませることができる。ところが日本では、相手の身分によってどの挨拶語を使うか考えなければならない。「じゃあね」「またね」などはよほど親しい間柄でないと使えない。「さよなら」「さようなら」はかなり幅広く使えるが、自分より目上の人に対しては「失礼します」「失礼いたします」を使うべきであろう。
- ⑥ 日本人は「お疲れさま」を別れの挨拶としてしきりに使うが、これは単なる別れの挨拶ではないことを指導に当たっては十分認識させる必要がある。精神的・肉体的にエネルギーを消耗する仕事を一緒にした後で別れるときに使うのである。したがって、「さよなら・さようなら」と同じように使うことはできないのである。

3. 感謝・詫びの挨拶語

- ① ありがとう・ありがとう ③ ごめん・ごめんなさい
 ② すみません・どうもすみません ④ 失礼・失礼しました
 ⑤ 申し訳ありません
 ⑥ どうも・どうもどうも

(1) 中国語の挨拶語の考察

〈感謝の挨拶語〉

① 謝々

「謝々（ありがとう）」は、最も一般的な感謝の挨拶語である。子供から老人まで、目下・目上の関係なく使用する。「謝々」は、円滑な人間関係を保つために極めて重要である。

例えば、道を尋ねて、相手が地図を書き丁寧に説明してくれたとき、「噢、明白了、謝々你（はい、分かりました。どうもありがとうございます）」と礼を言う。パーティーに招待されて終わったとき「謝々您的款待（あなたの歓待に感謝します。日本的に言えば、ご馳走様でした）」と礼を言う。また、中国では普通の店や百貨店の店員は客に感謝の言葉をあまり言わないが、大きなデパートや北京友誼商店や燕沙のような大きな百貨店の店員は「歡迎光臨（あなたのおいでを歓迎します。日本的に言えば、いらっしゃいませ）」「歡迎再來謝々（またどうぞお越しください、ありがとうございます）」と頭を軽く下げて挨拶する。

② 感謝・非常感謝

「感謝（ありがとう）・非常感謝（たいへんありがとうございます）」は、人に物を貰ったとき、或いはそれに近い行為を受けたときに用いる。

例えば、客をパーティーに招いたとき、主人は客に「承蒙諸位在百忙之中光臨，不胜感謝（お忙しいところ、皆さんにおいでいただき、感謝に堪えません）」と挨拶する。招かれた客は「請允許我祝你們合家幸福，并感謝今天的招待，干杯（ご家族の幸せと今日のおもてなしに感謝して、乾杯させていただきます）」と感謝の気持ちを表す。

また、久しぶりの友達を、バスの停留所や電車の駅まで出迎えたり送ったりするとき、その友達は、「您特地來接（送）我，非常感謝（わざわざのお出迎え〈お見送り〉，大変ありがとうございます）」と礼を言う。

③ 麻煩您了

人の助けを借りたとき「麻煩您了（ご迷惑をおかけしました）」と言うが、これも一種の感謝の挨拶語である。

④ 歡迎

飛行機に乗ったとき、乗務員が「飛機起飛了，歡迎大家乘坐我們的航班（飛行機が飛び立ちました。皆様、私どもの飛行機にお乗りいただきましたことを歓迎いたします。日本的に言えば〈本便をご利用いただきありがとうございます〉）」とアナウンスする。ここでの「歡迎」は、感謝の気持ちを表現しているのである。〈詫びの挨拶語〉

① 对不起

中国語では、詫びの気持ちを表明するには、ほとん

ど「对不起(すみません)」の一語ですませることができ。これは自分の間違いを完全に認めるほどの強い意味ではなく、軽く謝るとい程度である。電車の中で人の足を踏んだときなどに使う。それに対して、相手が「没関係(かまいません)」と答える程度の場合である。

この言葉の使用範囲は大変広い。例えば、道を尋ねるときに「对不起, 請問……(すみません, ちょっと伺いますが……)」, 電話を掛けるときに「我是○○, 剛才不在, 对不起(私は○○です先程は留守にしております, 失礼しました)」, 銀行で貯金の口座を作りたいとき「对不起, 我想開个戸头(すみません, 口座を作りたいのですが)」, 先生の家を訪問したとき「对不起, 打攪您这么長時間(すみません, 長い間お邪魔しました)」などと挨拶する。これらは、相手に手数を掛けるとき、相手に迷惑を掛けたとき、詫びる気持ちを表現する。銀行の場合などはいささか形式的である。

② 請原諒

自分の悪いこと、罪のあることを認めて相手の許しを請う場合には「請原諒(どうかお許しください)」と言う。

(2) 日本語の挨拶語の考察

〈感謝の挨拶語〉

① ありがとう・ありがとうございます

人に何かをしてもらったとき、何かを貰ったときに、感謝の気持ちを表現する挨拶語である。親しい間柄の相手、目下の相手の場合は「ありがとう」、改まった場面、目上の人に対する場合は「ありがとうございます」を用いる。心を込めて言う場合「どうもありがとう」「どうもありがとうございます」という形もある。

また、販売業・サービス業など客を相手にする職業の従事者は、客に対して「ありがとうございます」を連発する。

〈詫びの挨拶語〉

② すみません・どうもすみません

自分のほうにちょっとした過失や間違いのあったとき「すみません・どうもすみません」と言って謝る。あまりにも簡単に使われるのでやや形式的な言葉になってしまっていて、謝罪の意味が失われている場合もある。人込みの中を掻き分けていく場合に「すみません, すみません」と連発するのはそれである。

③ ごめん・ごめんなさい

自分の過失や間違いを認めて、相手に謝罪するとき

「ごめん・ごめんなさい」を用いる。「すみません」より謝罪の気持ちが強い。

ところが、これが「ごめんください」という形になると、よその家を訪問して玄関を入るときに発する挨拶語となる。

④ 失礼・失礼しました

礼儀・エチケットに外れるようなことをして相手の気分を損ねたような場合に「失礼・失礼しました」と謝る。他人の体につかった場合、約束の時間に遅れた場合、相手の名前を間違えた場合などに用いる。別れの言葉として用いる場合は「失礼します」と現在形にする。

⑤ 申し訳ありません

謝罪の意味が、さらに強くなると「申し訳ありません」を用いる。これは、深く反省しているという気持ちを含んでいる。言いながら頭が自然に深く下がってくるといった具合である。さらに丁寧にして「申し訳ございません」と言うが、いつでも最も丁寧な言い方をすればよいというものでもない。本当に気持ちがこもっていなければ、詫びの挨拶語にはならない。しかし、近年ではいささか形式化して気やすく連発する傾向がある。

⑥ どうも・どうもどうも

近年、日本人は、「ありがとう」「すみません」などというべきところで「どうも」とか「どうもどうも」ですませる傾向がある。「どうも」は、「本当に」という意味を持った強めの副詞であるから、必ず後になんらかの表現を伴わなければならない。その後の表現が脱落して「どうも」が独立して使われるようになったのである。

感謝・詫びの挨拶語として使われるだけでなく、出会い・別れの場合にさえ用いられるようになっている。

〈日本語・中国語の感謝・詫び挨拶語の対照〉

日 本	中 国
① ありがとう・ありがとうございます	謝々・感謝
② すみません・どうもすみません	对不起
③ ごめん・ごめんなさい	
④ 失礼・失礼しました	失礼了
⑤ 申し訳ありません	請原諒
⑥ どうも・どうもどうも	实在报歉・对不起

(3) 中国人に対する日本語教育上の留意点

- ① 感謝の意味の挨拶語は、ほとんどの場合丁寧表現の「ありがとうございます」ですませることができる。「ありがとう」では、すべての場合に通じるとは限らない。「ありがとうございます」のほうを使っておけば無難である。日本語に習熟し、日本人の生活習慣を理解してきたら「ありがとう」と「ありがとうございました」の使い分けを指導するとよい。
- ② 「对不起」に対応する詫びの言葉は多様であるから、まずは「どうもすみません」を使えるようにする。「どうもすみません」「ごめんなさい」「失礼しました」の使い分けは、さほど簡単ではない。それぞれの挨拶語を使用すべき相手・場面を設定して繰り返し使用法を指導しなければならない。
- ③ すでに考察の中で述べたように、いずれの挨拶語も、形を少し変えるだけで全く別の意味の挨拶語に変わってしまう。そのことを十分指導しておかないととんでもない失敗をさせることになる。
- ④ 「どうも」は、知識として承知しているのはよいが、非常に曖昧な言葉なので、場面・状況の把握が十分できるようにならないかぎり、日本人に対してあまり使わないよう指導するほうがよい。
- ⑤ 日本語の考察の項で触れなかったが、感謝の挨拶語として「お世話になりました」がある。文字通りいろいろお世話になったときに使うものである。

4. 物品授受の挨拶語

- ①粗末なものです・つま ⑤結構なものをいただきます
らないものですが まして
- ②お口に合いますかどうか ⑥過分なものを頂戴しま
- ③お気に召しますかどうか して
- ④不出来なものです ⑦結構なお味で

(1) 中国語の挨拶語の考察

中国にも日本にも、昔から人と付き合うとき、物品授受の習慣があった。円滑な人間関係を維持するために物品授受は大事な役割を果たしている。したがって、物品授受の挨拶語は我々の生活に欠くことのできない重要なコミュニケーションの手段である。

〈人に物をあげるときの挨拶語〉

① 区区小礼・这是一点薄礼

人に物品をあげるとき、謙遜して、挨拶の初めに「区区小礼・这是一点薄礼（ささやかなものです）」という言葉添える。例えば、お世話になった先生にお礼の品物を渡すときに「区区小礼、不成敬意、請笑納（ささやかなもので、ほんの気持ちだけですが、ご笑納

ください)」、また、旅行の土産を誰かにあげるときに「这是一点薄礼、是从〇〇地方带来的、仅表心意、請收下（これ、ささやかなものですが、〇〇から持ってきたお土産です。ほんの気持ちだけのものですが、どうぞお納めください）」などと用いるのである。

上記の「仅表心意（気持ちだけです）」と同類の言い方に「一点小意思（ほんの気持ちだけのものです）」がある。例えば、友達や同僚に世話になったお礼を渡すとき「一点小意思、請收下（ほんの気持ちだけのものですが、お納めください）」と言う。

② 不知合不合您的口味

相手に食べ物を贈るときには「不知合不合您的口味（あなたのお口に合うかどうか分かりませんが）」という挨拶語を初めに添える。例えば、地方特産のお菓子や果物を贈るときに「这是〇〇地方的特産、也不知合不合您的口味、尝尝吧、别客气（これは〇〇地方の名産です。お口に合うかどうか分かりませんが、どうぞ召し上がってください。ご遠慮なく）」、また、客を食事に招いたとき、主人は「也不知合不合您的口味、揀您喜歡的吃吧（お口に合うかどうか分かりませんが、お好きなものを召し上がってください）」と挨拶する。

③ 不知你（您）喜歡不喜歡・称心不称心・滿意不滿意

人に物品をプレゼントするとき、初めに「不知你（您）喜歡不喜歡・称心不称心・滿意不滿意（それぞれ若干ニュアンスが異なるが、日本語の「あなたのお気に召すかどうか分かりませんが」に当たる）」という挨拶語を添える。女性にスカーフやセーターなどを、書道の好きに人に文房四宝や七宝焼などを贈るときなどに「請、也不知您喜歡不喜歡（どうぞ、お気に召すかどうか分かりませんが）」と言う。なお、「請」は何かをしてもらいたいときに用件の頭に付ける丁寧語である。

〈人から物を貰ったときの挨拶語〉

④ 这可是件好的礼物・让您破費了・让您費心了

物品を貰ったときには礼を言うが、始めに「这可是件好的礼物（これは結構なものをいただきました）」とか「让您破費了（ご散財をおかけしました）」「让您費心了（いつも気に掛けていただいて）」などと添える。例えば、お土産を貰ったときには「让您破費了、真不好意思（ご散財をおかけしまして、申し訳ありません）」「让您費心了、太感謝了（いつも気に掛けていただいて、本当にありがとうございます）」「这可是件好的礼物、太謝々了（これは結構なものをいただいて、大変ありがとうございます）」などと挨拶する。

(2) 日本語の挨拶語の考察

〈人に物をあげるときの挨拶語〉

- ① 粗末なものです・つまらないものです・ささやかなものです・気持ちだけです

たまたま中国語では似たような表現があるが、日本人は人に物をあげるとき、食べ物をすすめるときなどには、謙遜して「粗末なものです」とか「つまらないものです」と始めに添える。高価なものをあげるときでもそう言うのである。受け取る側としては、相手の言葉を正直に受け取ってはいけない。ここに属する表現に「ささやかなものです」「ほんの気持ちだけです」という言い方がある。客に食事を勧めるときに「ささやかなものです、どうぞゆっくり召し上がってください」、お祝いの金品をあげるときに「ほんの気持ちだけです、どうぞお納めください」などを用いるのである。

- ② お口に合いますかどうか

人に食べ物をあげるとき、食べ物をすすめるとき、日本人は「お口に合いますかどうか、召し上がってみてください」などと言う。そういう言い方をする人に限って、自分の作った食べ物の味についてはかなり自信を持っているので、食べた後の物の言い方にはよほど気を付けなければならない。

- ③ お気に召しますかどうか

人に物をあげるとき、「お気に召しますかどうか」などと言う。これも前者と同じように、相手の気持ちを配慮した言い方である。

- ④ 不出来なものです

自分の手作りの品物を人にあげる場合、手作りの料理で人をもてなす場合などに、始めに添える挨拶である。手作りの衣服を人に贈る場合に「不出来なものです、お召しになってください」と言ったり、手作りのケーキを客に勧める場合に「不出来なものです、たくさん召し上がってください」と言ったりする。

〈物品を貰ったときの挨拶語〉

- ⑤ 結構なものをいただきました

普通、物品を贈られた場合は「結構なものをいただきました、誠にありがとうございました」と礼を言っておけば無難である。後半部分は、貰った品物によって、相手によってさまざまなバリエーションが考えられよう。

- ⑥ 過分なものを頂戴しまして

自分の身分に過ぎるような高価なものや立派なものを貰ったときには、「過分なものを頂戴しまして」と挨拶する。子供が入学祝いに時計を貰ったりすると「こ

のたびは、子供が過分なものを頂戴しまして恐縮いたしました」などと挨拶するのである。

- ⑦ 結構なお味で

お茶や食べ物を勧められて、それをいただいた後で感想を述べる場合は、まず「結構なお味でございました」とほめておいて、その後で具体的な印象を述べる。日本人は、自分の口に合わない場合でも、儀礼的にこういう挨拶をするのである。よほど親しい間柄でなければ、否定的な印象を述べてはならない。

〈日本語・中国語の物品授受の挨拶語の対照〉

日 本	中 国
① 粗末なものです・つまらないものです・ささやかなものです・気持ちだけです	区区小礼・不成敬意・一点薄礼・仅表心意
② お口に合いますかどうか	不知合不合您的口味
③ お気に召しますかどうか	不知您满意不满意・喜歡不喜歡・称心不称心
④ 不出来なものです	我做不好
⑤ 結構なものをいただきました	收您这么好的礼物…
⑥ 過分なものを頂戴しまして	收您这么贵的東西…
⑦ 結構なお味で	满好的味道……

(3) 中国人に対する日本語教育上の留意点

① 人に物をあげる際の挨拶語については、中国語と日本語にかなりの共通点がみられる。つまり、いずれもほとんど意味の変わらない対応語が存在するのである。注意しなければならないのは、これらの挨拶語がただ存在するだけでなく実際の生活の中で自在に用いられるということである。したがって、物品授受の可能性が予想されるような人間関係の中に入る場合は、本章に取り上げたような挨拶語を十分に理解し、習熟する必要がある。

② 今日では「これはおいしかったから、食べてみてください」などと率直な表現で挨拶して物を上げることが行なわれるようになってきたが、一般的には、謙遜の挨拶を用いることが多い。注意しなければならないのは、そういう挨拶で物を受け取ったときである。食べ物の場合、たといおいしくなくても、自分の気に入らなくても、そういう気持ちを率直に相手に伝えてはならない。相手の心を傷つけないように「結構なものをいただいて」などという儀礼的な挨拶を返す必要もある。

- ③ 指導に当たっては、実際にやりとりする可能性のある物品・食べ物を想定して、それぞれに適合する挨拶語を記憶させる必要がある。

5. 家の出入りの挨拶

A 出掛ける人の挨拶

- ① 行ってくるよ・行ってきます・行ってまいります
す
- ② 出掛けるよ・じゃ行くよ
送り出す人の挨拶
- ③ 行ってらっしゃい・行ってらっしゃいませ

B 帰ってきた人の挨拶

- ④ ただいま・ただいま帰りました
迎える人の挨拶
- ⑤ お帰り・お帰りなさい・お帰りなさいませ

(1) 中国語の挨拶語の考察

日本では、出掛ける人と送る人とで呼応する挨拶語があるが、中国では特に固定した呼応の挨拶語はない。しかし、人により、場合によってさまざまな挨拶の仕方がある。以下に挙げるのは、挨拶語というより挨拶の仕方というべきであろう。

① 妈妈我上学去了・我上班去了

子供が、朝、学校へ行くときには「妈妈我上学去了（お母さん、私は学校へ行きます）」或いは「妈妈再见（お母さん、さようなら）」と挨拶する。それを送る母親は単なる挨拶語ではなく「上課注意听讲，别走神（しっかり授業を受けるのよ）」とか「放学早点回家，别在路上玩（学校が終わったら、道草しないで早く帰るのよ）」などと注意する。これは挨拶語とは言えないかもしれない。

大人が出掛けるときには「我上班去了（仕事に行ってくるよ）」という。共働きの場合は「我先走（お先に行くよ）」と挨拶する。

送り出す人は「下班早点回来（仕事が終わったら、早く帰ってね）」と言う。

② 我出去了・路上加小心，慢点走

年寄りが外出するとき「我出去了（出掛けるよ）」と言うと、家人は「路上加小心，慢点走（途中お気を付けて、ゆっくり歩いてください）」と声を掛ける。

③ 我回来了・你回来了

外から帰ってきたときには「我回来了（帰りました）」と言い、家人は「你回来了（お帰りなさい）」と言って迎える。仕事から帰った人に対しては「累了吧（お疲れさま）」、学校から帰った子供には「放学了，饿了吧（授業が終わって、お腹が空いたでしょう）」と言

う。

(2) 日本語の挨拶語の考察

① 行ってくるよ・行ってきます・行ってまいります
自宅を出るときの挨拶語としては、「行ってきます」が標準的なスタイルである。例えば、登校する子供が母親に対して、出勤する夫が妻に対して用いる。後者の場合は少しくだけて「行ってくるよ」と言ってもよい。また、送り出す人が上位の場合は「行ってまいります」を用いる。

② 出掛けるよ・じゃ行くよ

きわめて親密な間柄では「出掛けるよ」とか「じゃ行くよ」といった気楽なものの言い方をすることもある。日本人の家族の間でよく使われる言い方ではあるが、日本語習得の初心者にあえて記憶させる必要はない。

③ 行ってらっしゃい・行ってらっしゃいませ

家を出ていく人に対する挨拶語の典型は「行ってらっしゃい」である。登校・出勤などの目的、人はほとんど区別する必要がない。ただ、出ていく人が上位者である場合、例えば、夫の親を見送る妻は「行ってらっしゃいませ」を用いる。

なお、旅館・ホテルなどの従業員が、外出する客を見送る場合にも「行ってらっしゃいませ」を用いる。

④ ただいま・ただいま帰りました

自宅に帰ってきた人の挨拶語の典型は「ただいま」「ただいま帰りました」である。親子・夫婦などの間柄では「ただいま」でよいが、迎える人が上位者の場合は「ただいま帰りました」と丁寧な表現をする。

⑤ お帰り・お帰りなさい・お帰りなさいませ

帰ってきた人を迎える挨拶語には「お帰り」「お帰りなさい」「お帰りなさいませ」がある。万能型の挨拶語は「お帰りなさい」、親密な間柄では「お帰り」、帰ってきた人が上位者の場合は、「お帰りなさいませ」を用いる。旅館・ホテルの従業員が客を迎えるのも「お帰

<日本・中国の出入り挨拶語の対照>

日 本	中 国
① 行ってくるよ・行ってきます・行ってまいります	我上学去了・我上班去了
② 出掛けるよ・じゃ行くよ	我出去
③ 行ってらっしゃい・行ってらっしゃいませ	你走好・路上多加小心
④ ただいま・ただいま帰りました	我回来了
⑤ お帰り・お帰りなさい・お帰りなさいませ	你回来啦

りなさいませ」である。

(3) 中国人に対する日本語教育上の留意点

① 日本語の家の出入りの挨拶語は完全にパターンが決まっているので、比較的指導しやすい。「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただいま帰りました」「お帰りなさい」の4種類を自由に使えるよう指導しておけばよい。

② 本章で述べたのは、自宅の出入りの挨拶語であるが、他家(例えば、先生の自宅、親戚・知人宅など)を訪問した場合の挨拶語を指導しておくことよい。

- ・訪問者 訪問したとき ごめんください
- ・迎える人 いらっしゃい・いらっしゃいませ
- ・訪問者 辞去するとき お邪魔しました・失礼します
- ・送る人 お構いもできませんで・またどうぞ

③ 上の対照表に示したものが代表的な挨拶語であるが、中国語の項目でも述べたように、相手・場合によって適当な挨拶を付け加えることも考えてよい。

6. 依頼の挨拶語

- ① すみませんが・恐縮ですが・恐れ入りますが
- ② 申し訳ありませんが
- ③ お願いですから
- ④ よろしく願います

(1) 中国語の挨拶語の考察

日本では、初対面の人に「よろしく願います」、或いは相手から何も世話になったわけでもないのに「いつもお世話になりました」などと挨拶する。中国人の生活習慣では、今から何かしてもらわなくてもいい人に「よろしく願います」と挨拶したり、今まで世話になったこともないのに「いつもお世話になりました」と挨拶したりすることはない。無意味にそういう挨拶をしたらかえって相手に違和感を与えるのである。

① 对不起, 拜托了

依頼の挨拶語として一般的に用いられるのは「拜托了(願います)」である。前に「对不起(すみませんが)」を付ければ、恐縮の意味が強くなる。友人にものを頼むときに使ったり、学校で旅行するとき、子供の担任の先生に「老師, 拜托了(先生, 願います)」と頼んだりする。

② 对不起, 請幫々忙好吗?

依頼の挨拶の頭に付ける「对不起」は、日本語の「すみませんが」「申し訳ありませんが」に当たるもので、利用範囲は広い。例えば「对不起, 請幫々忙好吗?(すみませんが, 手伝っていただけませんか)」「对不起,

能帮我把这本字典轉交給○○吗?(誠に申し訳ありませんが, この字典を○○にお渡しいただけませんか)」などと使うのである。

③ 对不起, 有事相求

依頼したいことのある場合、まずその旨を相手に申し出て、相手の意向を確かめてから用件を持ち出そうというときに「对不起, 有事相求(誠に申し訳ありませんが, お願いしたいことがあります)」と言う。続けて「不知您是否有時間(時間がおありかどうかわかりませんが)」と尋ねる。

相手が「どうぞ」という意向を示したら、「如果能請您給我修改論文的話, 那太感謝了(私の論文を手直ししていただけるとありがたいのですが)」という具体的な依頼の内容を述べる。

(2) 日本語の挨拶語の考察

① すみませんが・恐縮ですが・恐れ入りますが

本来詫言の言葉として使われる「すみません」を、依頼の用件の頭に付けて「すみませんが, その辞書を見せていただけますか」と言うと、依頼の挨拶語となる。「すみませんが, ちょっと通してください」「すみませんが, 席を空けてください」など、日本人の日常生活では「すみません」の連発である。使い手もそれほど気持ちを込めているわけでもないし、言われたほうもさほど気にしない。ほとんど形骸化した挨拶語といえよう。

上位者或いはまったく知らない相手に対しては「恐縮ですが」「恐れ入りますが」を用いる。本来「恐縮です」とか「恐れ入ります」は、相手が自分に対して示した過分な親切や好意に対してへり下って礼を言う挨拶語である。ちょっと頼みにくいことを頼むときなどに依頼の用件の前に付けるのである。

② 申し訳ありませんが

相手が気分を害するかもしれないような依頼、相手が必ずしもそうしようと思わないかも知れないような依頼をするとき、用件の前に「申し訳ありませんが」を付ける。「申し訳ありませんが, 煙草を止めていただけませんか」「申し訳ありませんが, 煙草をご遠慮いただけませんか」などと使うのである。相手の先手を打って謝っておこうという意識が働いているのかもしれない。

謙遜・丁寧の意味を強く込めて「申し訳ございませんが」と言う場合もある。商店などで客に対して「申し訳ございませんが, ただ今品切れでございます」などと使う。

③ お願いですから

比較的親しい間柄でものを頼むときには、用件の前に「お願いだから」「お願いですから」を付ける。妻が夫に「お願いですから、新聞を読みながらご飯を食べるのはやめてください」などと言ったり、子供が親に「お願いだから、おこづかいを値上げして」と頼んだりするのである。

④ よろしくお願ひします

依頼の用件を述べたあとに申し添える挨拶語として、「よろしくお願ひします」「どうぞよろしくお願ひ申し上げます」がある。

初対面の人に会ったとき、自己紹介をして「どうぞよろしくお願ひします」という場合がある。これは日本で日常的に用いられる形式的な挨拶語と考えてよい。

〈日本・中国の出入り挨拶語の対照〉

日 本	中 国
① すみませんが・恐縮ですが・恐れ入りますが	对不起・真过意不去
② 申し訳ありませんが	对不起
③ お願いですから・お願ひします	拜托了・有事相求
④ よろしくお願ひします	請多关照

(3) 中国人に対する日本語教育上の留意点

① すでに述べたが、中国では、あまり意味のない形式的な挨拶語は用いない。ところが日本では、本来はなんらかの意味があって用いられていたのに、現在では儀礼的、形式的になった挨拶語が非常に多い。そのことをまず十分理解させておかなければならない。

② 「すみませんが」の「すみません」、「申し訳ありませんが」の「申し訳ありません」は、本来謝罪の言葉である。別に謝罪するようなことをしていないのにこんな言葉は使いたくないというのは中国的な感覚である。日本人は、何かを他人に依頼するとき、形式的にこれらの挨拶語を用いるのである。日本人社会の中で円滑な人間関係を維持するためには、これらを自由に使えるとよい。

③ 依頼の挨拶語は、相手と自分の人間関係を十分理解した上で使わなければならない。上位者に向かって「すみませんが」を気軽に連発してはいけない。「申し訳ございません」なども、使い方を誤ると、慥無礼(丁寧すぎてかえって無礼に思われること)と思われて、相手を不愉快にさせることになる。

④ 謝罪・感謝の挨拶もそうであるが、依頼の挨拶語

も、ただ語法的に正しく言えればよいというものではない。相手に対する敬意、自分の誠意が言葉に込められていなければならない。心を込めて言葉を使うという気持ちを忘れてはならない。

おわりに

挨拶語は、日常生活において潤滑油のような役割をはたし、円滑な人間関係を成り立たせる重要な要素となる。現代の日本においては、若者たちの礼儀作法の乱れがしばしば問題になるが、挨拶語に関するかぎり、子供から大人に至るまで見事な体系をもっており、自在に駆使されている。

中国も古来礼儀の国として、挨拶語が日常生活の中で十分に機能している。特に近年では、大・中・小学校から社会人まで礼儀に関する学習の徹底がはかられている。中でも「你好(おはようございます・今日は・今晚は)」「对不起(すみません)」「没関係(だいじょうぶです)」「再見(さようなら)」「謝々(ありがとうございます)」などの挨拶語の使用を徹底させようとしている。

さらに礼儀教育の標語として、「儀表美」「語言美」「心灵美」の3つがラジオやテレビで全国人民に宣伝されている。それぞれ次のような意味である。

儀表美——奇妙な身なりをせず、服装がきちんとして
いること

語言美——日常生活における、美しく豊かな挨拶語のこと(汚い言葉を使わないこと)

心灵美——心の真実がそのまま動作になり、声になったものが真の挨拶語であること。

「語言美」「心灵美」は、まさしく日本語教育における挨拶語の指導の基本的な理念となりうるものである。挨拶語の指導に当たっては、単なる知識としての挨拶語を身に付けさせるだけでなく、挨拶語の中に込められている日本人の人間としての心情を十分理解させなければならないのである。

言語というものは人間社会を基盤として成り立つものである。したがって、言語は、国民性、民族性、社会階層、地域の特性などと密接ななかかわりをもっている。日本語の指導に当たっては、日本民族の特性・風俗習慣・文化などを十分に理解しなければならない。

日本人の中で使用して、日本人にまったく違和感を感じさせない日本語を身に付けさせることを今後の日本語教育の基本としたいものである。

付 言

本論文の主たる論述者皇麗梅は、現在北京体育大学の

外語研究室専任講師として日本語講座を担当している。平成7年(1995年)4月来日し、日本体育大学人文科学研究室で自身の日本語能力の向上および日本語教育の指導法の研究に努めてきた。来日に当たって、日本人の日本語(言ってみれば、ネイティブな日本語)を徹底的に研究し、日本語の特性を自ら身に付けることによって日本語教育のレベルアップを図ろうと考えていた。本論文は、留学2年目前期において、研究された成果の一部で

ある。紙数の関係で研究の成果のすべてを盛り込むことはできなかったが、帰国後、北京体育大学の日本語教育の向上には、大いに役立つものと考えられる。

今回の留学に当たっては、日本体育大学学長綿井永寿先生をはじめ、多くの方々のご指導をいただいた。そのうえ留学中にまとめた論文を本紀要に二度までも発表させていただいたのは望外なことである。ここに心から感謝申し上げる。